

淡路景観園芸学校におけるSDGs達成に向けた活動の 推進方策と取組み成果について

守 宏美¹⁾・林 まゆみ¹⁾

Measures to promote activities toward the SDGs at Awaji Landscape Horticulture School and their results

Hiromi MORI¹⁾, Mayumi HAYASHI¹⁾

【Abstract】

We report on the practice of the actions for SDGs in Awaji Landscape Planning and Horticulture Academy and the verification of its results. We decided to promote SDGs in human resource development, community activities and campus management by reflecting the opinions of faculty members and students through workshops and questionnaires. The creation of faculty and student volunteer teams and a wide range of voluntary initiatives contributed to the realization of many of the SDGs. In addition students have led to the development of human resources who will contribute to the construction of a sustainable society through the process of participating in these efforts.

Key words : SDGs, human resource development, community contribution

1. 背景

2015年9月、国連サミットでは、世界が直面している様々な問題の解決に向けて、2030年までに達成すべき17の目標、SDGs「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」が定められた。日本においても大規模な水害や土砂災害が頻発し、廃プラスチックによる環境汚染、ジェンダーや貧困格差などSDGs達成に向けて解決すべき様々な課題が山積している。さらに、世界に類のない急激な少子高齢化・人口減少社会を迎えており、特にこの影響を大きく受ける中山間地域では、地域の経済的、社会的、環境的な持続可能性がおびやかされている。

2. 目的

辻（2020）によると、大学における学生の自主的企画による課外活動をSDGsの目標により分類した結果、「4. 質の高い教育」に係る社会貢献活動が多く実施される傾向であることを明らかにしている。市坪ほか（2019）は技術大学における学生の自学自習サークル

活動の取組みが教育プログラムへと展開した成果を報告している。しかし、教育機関によるSDGsの取組みにおいて、淡路景観園芸学校として、専門職大学院課程及び園芸療法課程、生涯学習課程の3課程を有する複合的な教育機関が、教職員・学生の自主的な取組みとして、中山間地域に密着した地域活動やその成果を検証した事例はない。そこで2019年7月より開始した当学におけるSDGsの推進方策について、実践とその成果を検証する。

3. 方法

推進方策の実践は、準備段階と実行段階に分けその成果を検証した（図-1）。準備段階として研修会、ワークショップ、アンケートを実施し、これらを踏まえ「淡路景観園芸学校SDGs推進基本方針」を策定した。そしてこの方針を推進するための実行体制を構築した。

次に実行段階として様々な取組みを行い、最後に成果の検証を行った。

1) 兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科, Awaji Landscape Planning and Horticulture Academy / Graduate School of Landscape Design and Management, University of Hyogo

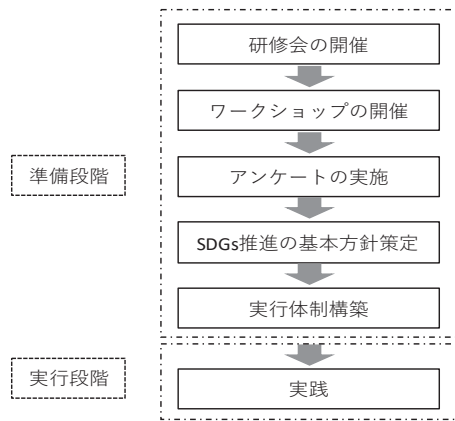


図-1 実施方法

4. 結果

4.1 準備段階

4.1.1 研修会の開催

研修会の開催概要を表-1に示す。内容は外部講師を招いたカードゲームを用いたプログラムで、「環境問題やそれにかかわる事業の推進」「知恵を集めて、共存共栄を図る」などの取組みをカードのやり取りを用いて行い、最終の点数を競うものである。その過程で、他の競技者との協働や連携に配慮することや経済活動と環境保護のバランス、ジェンダー平等や雇用など社会政策とのバランスにも配慮を求められ、SDGs達成に向けてのプロセスを疑似体験することができる。研修会後の参加者アンケート結果では「SDGsに関して自己との関わりが捉えにくかったが、このゲームを通じて行動を開始するための内発的動機が得られた」などの意見が得られた。

4.1.2 ワークショップの開催

教職員を対象にワークショップを開催し、淡路景観園芸学校において「過去及び現在実施しているSDGsに寄与する取組み」や「今後SDGs推進に向けて実施すべきこと」を集約し整理解析を行った(表-2)。この結果、すでにSDGs達成につながる緑環境景観分野や園芸療法の高い専門性を活かした取組みが多く実施されており、今後の実践や展開により、さらに広範なSDGs達成に寄与する知見や技術を内包していることが確認できた。また、これらの取組みを整理すると、今後のSDGs推進の方向性として「人材育成」「地域活動」「キャンパス運営」の3つに集約することができた(表-3)。

4.1.3 アンケートの実施

教職員によるワークショップの結果を踏まえ、広く学内関係者のSDGs推進に向けた取組み状況を把握するためアンケートを実施した(表-4)。「SDGs推進に向け実施していること」として、省エネや脱プラス

表-1 研修概要

開催日時	2019年9月27日(金) 13:00~16:10
講師	外部講師
参加人数	17名(教員9名 職員4名 学生4名)
プログラム	① SDGsの概説 ② 「2030SDGsカードゲーム」の実施
主な感想	行動を開始するための内発的動機が得られた。ゲームをきっかけに自分も何かやってみようと思った。自分自身の考え方や行動に対する見直しにつながった。

表-2 ワークショップ開催概要

開催日時	2019年10月8日(水) 16:00~17:30
参加人数・構成	教員12名 職員5名
テーマ	過去及び現在実施しているSDGsに寄与する取組み 今後SDGs推進に向けて実施すべきこと
整理解析	KJ法

チックなど日常生活の中での取組みの実施率は高いが、それらに比較すると地域活動や地域交流活動の実施率は下がる傾向にある。「淡路景観園芸学校が今後実施すべき取組み」としては「人材育成」「地域貢献」「キャンパス運営」に関連する全ての項目について高い取組意欲が見られた(図-2,-3)。

4.1.4 SDGs推進の基本方針策定

これらのワークショップ、アンケートの結果から淡路景観園芸学校におけるSDGs推進の方針として3つの方向性に基づき実施することとし「淡路景観園芸学校SDGs推進基本方針」を策定した(図-4)。

①人材育成を通じたSDGs推進

「景観園芸」の教育及び研究を通じて、持続可能な社会構築する人材育成を行う。

②地域活動によるSDGs推進

地域に密着し、課題解決に向け自ら実践を行う。

③キャンパス運営におけるSDGs推進

人材の多様性の尊重、環境負荷を低減するキャンパス運営を行う。

4.1.5 実行体制の構築

基本方針に基づき実践を行うために教職員及び学生有志による「淡路景観園芸学SDGs推進チーム」を結成した。月1回のミーティングを開催し、参加者による企画立案をもとに内容の詳細を検討し活動を決定する運営体制を取った。各活動の運営は、参加希望者が集まりリーダーを決め、自主的に運営を行う「部活方式」とした。

表-3 ワークショップの開催結果

SDGs推進の方向性	過去および現在実施しているSDGsに寄与する取組み	SDGs達成項目	SDGs推進に向け今後実施すべきこと	SDGs達成項目
人材育成	緑・環境景観の専門家育成	4教育	高校生の学び支援	4教育
	園芸療法士の育成	4教育	自然素材を利用するスキル講座開催	4教育
	生涯学習の場の提供	4教育		
	小学校の環境教育の実践 冒険遊び場の実施	4教育		
地域活動	草原生植物の保全に係る研究	15陸の豊さ	気候変動に強いガーデンづくり	11まち
	在来種の利用促進	15陸の豊さ	有機物の循環モデル策定 (ヤギ除草・堆肥化)	11まち
	グリーンインフラの提案	11まち	エシカル商品や地元商品の利用促進	12つくる責任
	花と緑を活用した被災地支援活動	3健康と福祉	子ども食堂支援	1貧困
	コミュニティガーデンによる、 都市の新たな緑のあり方提案	3健康と福祉		
キャンパス運営	グリーンインフラとしての雨庭の実践	13気候変動対策	効率的な働き方改革	8働きがい
	省資源・節電	13気候変動対策	脱プラスチック(ペットボトル削減 園芸資材の分解性への転換)	12つくる責任
			校内の有機物の循環モデル策定 (堆肥化・コンポスト設置)	12つくる責任
			薪ストーブ導入による木材利用促進	15陸の豊かさ

表-4 アンケートの概要

配布日	2019年11月28日(水)	質問項目	SDGs推進に向け実施していること
回答期日	2019年12月10日(月)		今後、園芸学校が実施すべき取組み
対象	教職員44名・学生59名・生涯学習受講者35名	回答方法	5段階評価方式
有効回答数	88(回答率 64%)	解析方法	加重平均により分析

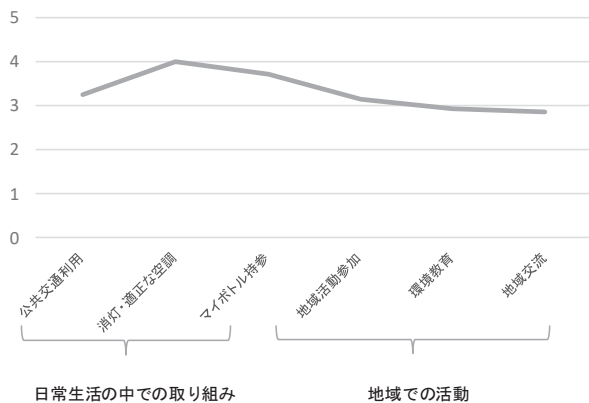


図-2 SDGs推進に向けて実施していること

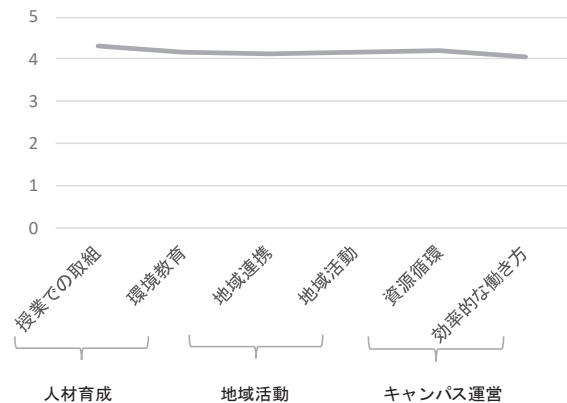


図-3 淡路景観園芸学校が今後実施すべき取組み

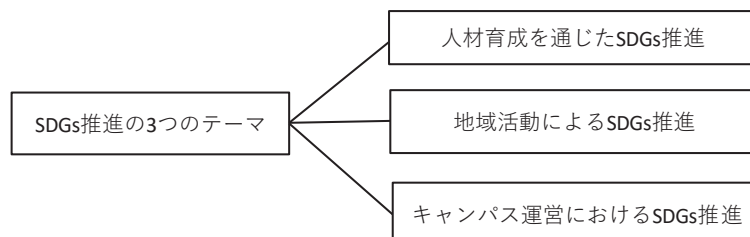


図-4 淡路景観園芸学校SDGs推進基本方針

4.2 実施段階

4.2.1 活動の実施結果

2019年12月から2021年3月までに実施した活動とSDGs達成項目及びその活動実施を通じた教育効果を示す(表-5)。結果として16の多様な活動が実施された。

SDGs達成項目は、活動内容により複数の項目達成が可能であるが代表的なもの1つを選択した。以下、3つの方向性に基づき実施された取組みについて説明する。

①人材育成を通じたSDGs推進

大学院や生涯学習課程のシラバス等にSDGs推進に関わる内容が追記され、持続可能な開発のための教育がカリキュラムに位置づけられた。

②地域活動によるSDGs推進

- ・ 放置竹林拡大防止のための竹の有効活用の試行や耕作放棄地の拡大防止のためのヤギ除草の実証実験、日本ミツバチ養蜂による環境モニタリングなどが実施され緑環境景観の専門性を活かした中山間地域における環境保全活動の実践の場となった。
- ・ 子ども食堂支援による子どもの貧困対策の実践や小

学生を対象とした環境教育が実施された。学生と子どもたちのふれあいを通じて、子どもたちは大学院教育を知る機会となり、子どもたちのキャリア教育としての効果も見られた。

- ・ 園芸療法の専門性を活かし公園での園芸療法プログラムが実施され、地域住民のフレイル予防の機会を提供するとともに、園芸療法課程の学生にとって実践を通じた学びの場となった。
- ・ 今後の地域産業として期待されるサイクルツーリズムや淡路島の食材を活かしたランチを提供するイベントの企画運営が行われ、実現可能性の検証を通じて地域経営の学びにつながった。

③キャンパス運営におけるSDGs推進

全寮制であり生活に密着した活動ができる環境を活かして生活ゴミの堆肥化による資源リサイクルの実践や薪ストーブの導入による里山管理による資源循環の実践の場となった。また、キャンパスでの給水機設置により脱プラスチックなどの意識啓発につながった。

表-5 実施した活動とSDGs達成項目及び活動を通じた教育効果

SDGs推進テーマ	活動名	取組み・活動詳細	SDGs達成項目	活動を通じた教育効果
人材育成	大学院の学生便覧やシラバスの改定	目的や各科目にSDGs推進に係る内容を追記する	4教育	持続可能な開発のための教育
人材育成	落ち葉堆肥づくりのセミナー開催	生涯学習課程における資源循環の普及啓発	4教育	持続可能な開発のための教育
地域貢献活動	子ども食堂支援	子ども食堂に学内で栽培した野菜の提供	1貧困	子どもの貧困対策の実践
地域貢献活動	公園における園芸療法プログラムの実施	公園における園芸療法プログラムの実施	3健康と福祉	地域住民のフレイル予防やコミュニティ醸成
地域貢献活動	子どもの環境教育支援	小学校において環境体験学習を実施	4教育	持続可能な開発のための教育
地域貢献活動	サイクルツーリズムイベント開催	地域資源を生かしたサイクルツーリズムイベントの企画運営	12つくる責任	地域資源を生かした産業育成の社会実験
地域貢献活動	地元食材の利用促進	地域の食材を生かしたランチボックスの企画運営	12つくる責任	地域資源を生かした産業育成の社会実験
地域貢献活動	海岸清掃部	淡路島内における海岸清掃活動に参加 マイクロプラスチック問題に係る調査	14海の豊さ	海洋汚染問題に対する実践
地域貢献活動	ヤギ部	草原管理手法としてのヤギ除草実証実験	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践
地域貢献活動	竹部	放置竹林の管理のための竹の有効活用	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践
地域貢献活動	野食部	外来種や身近な自然の食材を生かしたレシピ開発	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践
地域貢献活動	地域の伝統的な自然管理活動に参加	畔管理(野焼き)・ため池管理(かいぼり)に参加	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践
地域貢献活動	ニホンミツバチ養蜂部	キャンパスにおけるニホンミツバチ養蜂の実施	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践
キャンパス運営	給水装置設置	キャンパス内に給水装置設置	12つくる責任	脱プラスチックの意識啓発
キャンパス運営	土部	レジデンスの生ごみやキャンパス内の落ち葉を堆肥化	12つくる責任	資源リサイクルの実践
キャンパス運営	薪ストーブ部	学内集会室に薪ストーブの導入	15陸の豊さ	中山間地域における環境保全活動の実践

1貧困をなくそう 3すべての人に健康と福祉を 4質の高い教育をみんなに 12つくる責任 つかう責任 14海の豊かさを守ろう 15陸の豊かさを守ろう

4.2.2 情報発信

①SDGs通信の発行

SDGs達成には様々な主体との連携による取組みが不可欠であり、目標の一つとして「17パートナーシップで目標を達成しよう」を掲げている。そこで他団体の活動の参考となることや連携による活動展開を期待し、取組みで得た知見や技術に関する情報をまとめたSDGs通信を作成した(表-6 図-5)。大学のSDGs推進部署や地域連携担当、関連行政機関、兵庫県内公共施設などに配布し、情報発信に努めている。

②淡路島におけるSDGs推進の小冊子作成

SDGs達成に向け淡路島の地域に密着した取組の成果を伝えることで、子どもたちがSDGsに関心を持ち、自らの行動や活動の参考となると考え、小冊子の制作を行い、淡路市内全小学生に配布を行った。対象は小学生とし、漫画やイラストを用いるなど伝え方に工夫している(表-7 図-6)。

表-6 SDGs通信概要

サイズ	A4 4ページ カラー 両面開き
内容	SDGs推進の取組紹介
発行回数・部数	年4回・2000部



図-5 SDGs通信創刊号

表-7 小冊子概要

サイズ	A5 8ページ カラー 観音開き
内容	漫画 SDGsとは ヤギ除草 海洋ゴミ問題 外来種問題 ニホンミツバチ養蜂の活動紹介



図-6 小冊子表紙・裏表紙

5. 考察

準備段階と実行段階に分けその成果の検証を行う。準備段階として、研修会の実施によりSDGs推進に向けた意識向上や行動を開始する内的動機が得られたと考えられる。次にワークショップ、アンケートの実施により学内のSDGs推進に向けすでに実施されている取組みや今後の展開すべき取組みを集約し整理することができた。これらの結果を踏まえ、SDGs推進における3つの方向性を見出し、「淡路景観園芸学校SDGs推進基本方針」を策定した。

その後の実行段階においては、16の活動が実施された。3つの方向性に基づき実施された活動数及びそのSDGs達成項目を表-8に示す。緑環境景観や園芸療法の専門性を持つ教職員や学生の企画提案による自律的な運営体制を取ったことにより様々な活動が実施され、6つのSDGsの達成に寄与することができた。また3つの方向性のうち、地域貢献活動が半数以上を占めた。人材育成においては複合的大学の特色を生かし、大学院教育と生涯学習における取組みが実施された。キャンパス運営においては、全寮制である大学の環境を生かし生活と密着した活動が実施された。

次に活動を通じた教育効果として、緑環境景観の専門性を活かした中山間地域における自然環境保全を中心に地域産業育成の社会実験や海洋汚染問題、貧困対策など社会の広範な課題の解決に向け、実践を通じた学びの場となった(表-9)。参加者はこれらの活動を通じて地元の人と交流を重ね、過去の自然資源の利用や資源循環などについてヒアリングをする中で、淡路島の伝統的な暮らしの中に、持続可能な地域経営の技術や仕組みがあることを見出した。そしてこの実践を通じて得た知見を情報発信することが広範な社会におけるSDGs推進に寄与すると考え、通信や小冊子の制作につなげている。参加者はこれらの記事の執筆や編集作業を通じて、活動意義の再確認や成果の検証を行う機会を得ており、この過程が学びの深化につながったと考えられる。

今後の社会における多岐に渡るSDGs達成に向けて、職場、家庭生活、地域活動など様々な状況において一人一人がSDGs達成の視点を取り入れ行動を行い、さらにその取組み成果を発信し、様々な連携により課題を解決していくことが求められている。これは、淡路景観園芸学校SDGs推進基本方針に基づき参加者が実践を通じて経験したプロセスそのものであり、これらの取組みを通じた実践は持続可能な人材教育につながったと考えられる。

表一 8 3つの基本方針に基づく活動数とSDGs達成項目

	1 貧困	3 健康と福祉	4教育	12つくる責任	14海の豊さ	15陸の豊さ	合計
人材育成			2				2
地域活動	1	1	1	2	1	5	11
キャンパス運営				2		1	3
合計	1	1	3	4	1	6	16

表一 9 教育効果ごとの活動数

教育効果	取組み・活動数
中山間地域における環境保全活動の実践	6
持続可能な開発のための教育	3
地域資源を生かした産業育成の社会実験	2
海洋汚染問題に対する実践	1
子どもの貧困対策	1
資源リサイクルの実践	1
地域住民のフレイル予防やコミュニティ醸成	1
脱プラスチックの意識啓発	1

6. 展望

準備段階において研修会やアンケート調査、ワークショップを通じて学内関係者の情報や意見を集約する中で、既往の研究成果や取組みにおいてSDGs達成に寄与する知見や成果を内包していることが確認できた。今後、これらの成果をSDGs達成の基軸として社会に提供していくことがより広範なSDGs推進につながると考える。そのためには、学内関係者が今後の研究や取組みの実施に際してSDGs推進基本方針に基づく行動を促す動機づけが重要であり、継続した研修の開催や普及啓発により意識醸成を図っていきたい。

実行段階において、参加者の自主的な活動をサポートする推進チームの体制を構築したことにより、緑環境景観や園芸療法の専門性を踏まえた幅広い取組みが実践され様々なSDGs達成に貢献することができた。

SDGs達成に向けて、今後も継続した取組みが重要であるが、チームの中心となる学生は毎年入れ替わることから、1年間の活動を通じて先輩から後輩へ知識や技術の伝授ができる部活方式の運営体制を取った。今後の取組みの中で、活動継続の検証を課題としたい。

さらに、今後広範な社会におけるSDGs達成の達成を目指した学外への取組展開として、多様な年代における人材育成や他団体との連携を進めるため、知見を活かした新たなセミナー開催や環境教育のプログラム展開を図っていきたい。

引用文献

- 市坪誠(2019) SDGsを活用した大学教育. 公益社団法人日本工学教育協会工学教育研究講演会講演論文集, 448-449
- 辻, 多門(2020) 正課外活動による社会貢献性の傾向—山口大学おもしろプロジェクト企画の SDGs (持続可能な開発目標) による分類をもとに. 大学教育 17,33-42